

(戦後80年で) “いっしょに” 考えたいコーナー

今年は戦後80年ということで、戦争の被害者の証言が多く新聞やテレビ等を通して報じられました。戦争という最も悲惨な人権侵害を二度と起こしてはならないと、我々多くの戦後世代に心底よりの警鐘として伝えて頂いたのだと思います。

戦争体験者世代が減る中で、再び戦争に進みかねない動きもあります。防衛(抑止)力強化の名の下に敵地反撃能力を持つ軍拡の道に進もうとしている現状に注視する必要があります。何故ならその考え方の根底には相手は敵対心を持っていて危険という思いがあります。その一方で戦争反対や核兵器廃絶を唱える人も多くいます。

その人たちは、人は協調出来ると信じています。今年の長崎市長の平和宣言文の中で【「人類は核兵器を無くすことが出来る」強い希望を胸に、声を上げ続けた被爆者の姿に、多くの市民が共感し、やがて長崎に「地球市民」という言葉が根付きました。この言葉には、人種や国境の垣根を超え、地球という大きな一つのまちの住民として、ともに平和な未来を築いていこうという思いが込められています。この「地球市民」の視点こそ、分断された世界をつなぎ直す原動力となるのではないでしょうか。地球市民である世界中の皆さん。たとえ一人ひとりの力は小さくとも、それが結集すれば、未来を切り拓く大きな力になります。・・・はじめの一步は、相手を知ることです。対話や交流を重ね、お互いに理解し、小さな信頼を重ねていく。

これは、私たち市民社会の大きな役割です。】この宣言文の言葉は、私たちが目指す差別のない社会づくり(まちづくり)の活動にも全く合致し、取組みを継続すべき内容であると感じました。地域の皆さんと戦争を防ぐには前者と後者のどちらの考え方を選択するのが良いのか、また身近なこの地域の問題を解決するにはどうするかを、みんなと『いっしょに』考え、行動に結びつけましょう。

～ フィールドワーク参加者募集 ～ 先着順10名程～

『美術品から考える人権』滋賀県立美術館(アール・ブリュットの方の作品)

滋賀県立琵琶湖博物館他を見学します。日時: 11月16日(日)

市民センター駐車場 朝8時集合、帰りは17時45分頃着 参加費は昼食代2,000円です。 問合せ・申込先は 団体事務局へ 受付は電話のみ 059-327-1501 (受付時間は午後1時～5時の間で、ご注意事項を)

同推協では常時 啓発委員(仲間として活動して頂く方)を募集しています!

【問い合わせ先】神前市民センター内 団体事務局 TEL・fax 327-1501(受付午後)

Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp

同推協だより

No.143号

2025年10月発行

神前地区同和教育推進協議会

Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp



☆ 2025年度 啓発委員研修会が開催されました ☆

7月25日、8月1日、8月8日、8月22日の午前と夜の各2部制で各4回実施延べ約430名の方々にご参加いただきました。

1回目: 気づきから行動へ ～ 講演と懇談 ～

1回目は伊藤玲江先生よりアンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)について自身の体験から「気づきから行動へ～神前で生まれ育ったわたしのアンコンシャスバイアスを考える～」と題しての講演を聞き、その後班別に分れ自分自身の振り返り(自分自身が知らず知らず無批判に正しいと思い込んでことは無いか、またそれは誰から受け継いだのか等を考えながら)懇談しました。



伊藤先生のご家族との実体験を織り交ぜ、すぐ解りやすくアンコンシャスバイアスについて解説していただきました。



2回目: 気づく・向き合う ～日常にある偏見や思い込みを思いだす～

2回目は1回目の講演を振り返り、自身の日常にある思い込みや偏見で発した言葉や行動はないか、周りからの影響で気づかないうちに差別意識を持ってしまうことはないか? その思い込みや偏見はどうやってできたか、どこからやってきたのかを班で話し合いました。次に部落差別ではどんな無意識の思い込みや偏見があるのかを話し合いました。



3回目：〇に何を(どんなことばを)入れますか

3回目は「差別する人⇔反対は⇔差別を〇〇〇人」の〇〇〇に何が入るかを各自で考え、それぞれが思った言葉と何故そう考えたのかを発表しました。

〇〇〇にはしない、される、うける、とめる、なくす、等それぞれの体験等からの思いが発表されました。研修では皆が差別をなくす人になり仲間を増やすことで、差別をする人が減り差別がなくなるということに多く参加者が共感しました、そしてこの活動を続けることで差別のない明るい住みよい住みたいまちづくりにつながることを確認しました。



4回目：町別・団体別懇談会に向けて ～人のつながりとは～

4回目は3回の研修を踏まえて、町別・団体別懇談会で「私のものさし」を考える時にどんなテーマで話し合ったら良いのか等、参考テーマで実際に話し合いながら、参加者それぞれが考えました。

4回の研修では十分に話し合う時間も少なく課題も残りましたが、参加者同士が本音で語れる、意味ある場でした。



研修会にご参加いただいた啓発委員の方々は、自身の地区や小学、中学、高校などの団体別の懇談会に参加していただき「差別をなくす人の輪」を広めていただきたいと思います。



⇒次ページ研修会のご感想

研修会のご感想 たくさんのご意見ご感想いただきありがとうございました

※下記ご感想は一部抜粋させていただきました内容になります。

隠れた思い込みの話から今までの思い返すと、思い当たることがありました。伊藤先生の話聞いて気がつくことができたので、これからの生活で考えたり、振り返ったりして隠れた思い込みを減らしていきたいと思いました。



小学校関係者

無関心、無知、無理解が要因の刷り込みによる差別の意識に気づく事の大切さと、その後の自身の行動が重要だと、考えさせられる講演でした。



自治会関係者

まずは、正しい事実を知ることの大切さを改めて感じました。待っていても、何も学習出来ないなので、色々なことに対して疑問を持ったり、自分から知ろうと動いていきたいと思いました。また、学んだことを家族や親戚等に話しながら、お互いに気づき合うきっかけを作っていきたいと思いました。



小学校関係者

共感できることだらけで、自分の話を聞いているようでした。親として子どものためを思って…のつもりでの口出しでも根を掘り起こせば自分が「親としてどう思われるか」とか自分の世間体を気にしてしまっている自分がいます。そういう独自の価値観が自分や周りの人を縛り付けるのだと改めて感じさせられました。



啓発委員一般公募者

グループの中で、部落差別についての知識がほとんどなかった方が、自分で調べるようになったり同推協の50周年誌などを借りて読んだり、事実を知るために行動した人たちがいた。こうして差別をなくす仲間ができていくのだとすごく嬉しい気持ちになった。自分ももっと語れる自分になるために頑張りたい。



小学校関係者